第２回　富良野市文化財保護審議会　顛末

と　き　令和７年８月２７日（水）　１３：００～１７：１５

ところ　芦別市内

出席者　委　員：永盛 俊行(委員長)、芝野 伸策、市村 英規、篠嶋 慎一

事務局：澤田所長、泉係長

１．視察研修先の概要説明

生涯学習センター応接室にて視察の概要を説明

２．報告事項

同上、以下報告

（１）旧 JR 山部駅旅客詰所１号の移設展示公開

（２）鳥沼公園湿地林の地下水位調査

（３）その他の報告事項

３．視察研修

旧狩勝線鉄道遺構群(南富良野町域)の保存管理に関わる南富良野町落合在住の笠原隆平氏にご案内と解説を依頼、旧狩勝線の遺構で新得町指定文化財を中心に視察した。旧狩勝線は明治 35 年に工事着工、明治 40 年に完工、北海道の西と東が初めて鉄路で結ばれた。

①狩勝信号場跡地と北海道官設鉄道狩勝隧道＜落合側＞(町指定文化財)

落合―新内間、狩勝峠の落合側に設置された信号場で、引込線 2 線と狩勝隧道横の折返し線１本を有した。狩勝峠に至る南富良野町側の国道 38 号線から目視でき、狩勝信号場跡地と落合側の狩勝隧道入口を見学した。信号場跡地は信号場構内全体を一望することが可能で、官舎等建物の布基礎などが確認できる。時間の関係上、駅本屋跡地付近まで足を延ばした後、折り返して、狩勝隧道と折返し線を見学した。主に草刈り、解説看板設置だけとはいえ、広大な敷地を管理していることに驚きと敬意の念を覚える。

②新内沢の大築堤(町指定文化財)

大カーブと新内隧道の中間にまたがる大きな沢に構築された築堤で、川からレール面までの高低差は 76ｍあり、この築堤の 200ｍ区間に 14 万 4000 ㎥もの土砂を投入したと記録される。見たことのない高低差の築堤に圧倒される。

③新内隧道(町指定文化財)

延長約 124m の短小なトンネルだが、坑門部の美麗な外観を保ち、そのデザインも印象的。アーチ部は煉瓦造、側壁部は石積造で、坑門には切り欠けを加えた壁柱を持つ。トンネル内部にはヒカリゴケが群生、本件も指定文化財に指定されている。当日はその分布状況がよく確認できた。

④北海道官設鉄道狩勝隧道＜新得側＞(町指定文化財)

隧道入口前に解説看板がある。本隧道内は急勾配が連続、換気条件が厳しかったため、機関士らの窒息事故が多発、後に遮風用の幕が設けられ、新得側から蒸気機関車が入るときのみ、

垂幕が下された。本作業のため、隧道入口に垂幕取扱所を設置、24 時間３交替で新得保線区から作業員が配置されたという。

⑤大カーブ(町指定文化財)

延長 770m間に長大な馬蹄形の連続曲線を描く大築堤。勾配を緩くする目的で、曲線状に線路を敷設したものである。カーブがきつい部分には、脱線防止のために特殊な護輪軌条の構造とした。新内沢の大築堤と同様に、驚くべき土量の築堤である。

⑥佐幌岳の石切り場

新内駅近くの梅園傍に石切り場を眺望可能な場所があり、ここに解説看板が設置されている。工事期間中の明治 37 年に開発された歴史的に古い石材鉱山で土留め石や隧道入口、駅ホームなどに多用された。また釧路市幣舞橋、旭川市旭橋、札幌市豊平橋の建設材として使用、その他に北海道神宮一の鳥居の笠石にも使われた。昭和 28 年に閉山、その後再開を試みるが昭和 39 年に再び閉山。現在は草木が覆い全容が分からない状況である。

⑦大カーブ展望場

国道沿いから大カーブを展望可能な駐車場があり、解説看板が設けられている。最後にここから大カーブを眺望し、あらためてその規模の大きさを確認した。

４．総括

新得町指定文化財である旧狩勝線鉄道遺構群を視察した。このうちのいくつかは平成 15 年に土木学会の選奨土木遺産に、平成21年には旧狩勝線として経済産業省の近代化産業遺産に認定され、高く評価されている。昨年、富良野―新得間根室線の部分廃止と本区間の駅が廃駅となり、本市あるいは南富良野町域におよぶ数々の鉄道遺産と歴史的建造物の保存・活用が課題となっている。こうした課題にどのように向き合うべきか考える一つの参考事例として、今回、旧狩勝線鉄道遺構群の視察を行った。その面的な広がり、ボリューム、歴史的価値、いずれも一級品であると感じさせられ、参加した委員も感動を覚えていたように思う。地道に保存活用に取り組んできた旧狩勝線を楽しむ会、新得町には頭の下がる思いである。今回、笠原氏にご案内いただき、大変有意義な視察研修会となった。

本市の場合、山部駅構内といくつかの歴史的建造物、布部駅の保存活用が課題であるが、前者は明治 44 年建築の危険品庫が課題の一つである。外壁にひび割れが生じており、保存のためにはそれなりの費用が生じるため、それなりの手続きが必要である。19 線踏切脇にあった詰所は当館敷地内に移設、保存展示ができたが、創建時の姿への復元に今後取り組まなければならない。一方、布部駅は市内の民間団体が活用に乗り出している。いずれにしても、一筋縄ではいかないが、新得町の取り組みも参考にしながら、その歴史的な価値を評価・共有し、保存活用の輪を広げていく必要があるだろう。今回、審議委員とともに視察研修し、学んだ知見を今後の審議会の議論に活かしていきたい。

５．今後の予定

第３回委員会：１１月を予定

議題：令和７年度事業計画についてほか